

編集後記（あとがき）

唐突に弁解事で申し訳ないが、本シンポジウムの世話人反省会で、編集後記とは趣旨が異なるものの、木曾を代表して私が「何か」を書く、ということに決まりました。そこで、編集後記に「あとがき」を加え、且つ肩の力を抜いて思うところを書かせて頂きたいと思っております。ここはどうかご勘弁願いたい。そこで、編集後記として通常記される参加者数や発表者数などのデータは、改めて書かないことにします。それでも知りたいという方は、集録冒頭の目次などを参照して頂きたい。

さて、今回のシンポジウムは、前回の木曾開催から4年目の開催となり、我々も開催地の世話人として、このシンポジウムをスムーズに、また気持ち良く進められるよう、側面からバックアップしようと考えていました。因に、シンポジウムの企画や運営については、三鷹チームが長年に亘るノウハウを活かして対応して頂けたので、何ら不安になる事はありませんでした。我々が今回特に気を使ったことは、会場の選択と加えて休憩時間の対応と懇親会の内容でありました。会場については、改築間もない上松町公民館（綺麗な会場でネットワークが利用できた）を使用させて頂く事ができました。これは大変幸運でした。上松町公民館のスタッフの方々にはご無理を言って助けて頂き、教育長さんには突然のスピーチもお願いしました。丁寧な対応に感謝し、この場をかりて御礼申し上げます。ところで、今年のシンポジウムでは美味しい「ドリップコーヒー」を片手にポスターセッション等の休憩時間を過ごさせて頂き、痛く感激いたしました。緊張する講演後のこうした時間は何とも「ホット」するものです。そこで、今年も是非採用したいと考えていました。今回は木曾の森さんに美味しいコーヒーを入れて頂きました。感謝です。次は懇親会です。「おつまみ」に乾物等はあまり好みではありません。今回は食べ物として、オードブル+お寿司+缶詰+α。飲み物は生ビール（サーバー利用）、木曾の酒にワインとコストパフォーマンスを最大限発揮できるよう工夫してみました。業者の手違いで食べ物が揃わない中、ジョッキ一杯になったビール片手に缶詰をつまんだ「練習時間」の短かった事、これも大変乙なものでした。量・質とも十分であったなど自負しているところです。二次会の詳細は後の機会に回します。

さて、ご存知の方も居られるでしょうが、和食の世界では「口中調味」なる言葉があるようです。口の中で、ご飯とおかずを混ぜ合わせ味を整える食べ方で、日本独自？の伝統とも言えるかもしれません。天文学の技術の世界に無理矢理当て嵌めると、さしずめ光や電波等の異なる分野の技術の良いところを混ぜて絶妙な技術・分野を切り開くこと、とでも言えまじょうか？（まー 無理矢理ですが）。多分野の技術者が集まったのシンポジウムには、是非そうした考えを念頭に、より多くの方々にご参加頂き、今後一層発展して行って頂きたいと願っています。最後に、今回ご参加頂いた皆様方にはシンポジウムの運営全般にわたり、多大なご支援ご協力を頂きました。改めて御礼申し上げます。

（世話人代表 青木 勉）

第34回 天文学に関する技術シンポジウム世話人

青木勉、征矢野隆夫、樽沢賢一、森由貴（東京大学 木曾観測所）、

岡田則夫、佐藤直久（国立天文台 先端技術センター）

長山省吾（国立天文台 天文情報センター）、篠田一也（国立天文台 太陽観測所）